

導入事例

青山学院初等部



導入製品

i-FILTER®

DigitalArts@Cloud



「タブレット学習の実証実験でわかった  
子どもの積極性・協調性の向上。  
それを支えてくれたのは  
『i-FILTER@Cloud』でした」

— 青山学院初等部 部長 中村氏

ICT活用に積極的な青山学院初等部では、近年タブレット学習の実証実験を開始。子どもたちの発達段階や情報リテラシーを考慮した強めのフィルタリングにしつつ、「i-FILTER@Cloud」の時間割機能で教科ごとに必要なサイトを一時的に自動開放することで、先生の手間は削減、子どもの学ぶ機会を増やしました。また、連絡事項や音読の課題などを掲載する学校ポータルサイトは常に開放して、自宅に持ち帰ったタブレットで子どもと保護者がコミュニケーションを図れる柔軟な環境も実現しました。

「個」を重んじる教育を実現するツールとして  
ICTを活かす

青山学院初等部(東京都渋谷区)は、キリスト教信仰に基づいた教育を実践する名門校です。「個」を重視した教育を大切にし、“感じ・考え・学習する学びのサイクル”を通して、自分の力を人と社会に生かす「サーバント・リーダー」の育成をめざしています。具体的には、PDCAサイクルで日常的に評価を行う「成長記録」や個別学習指導、多様なプログラムが体験できる宿泊行事、食育など、特色ある教育活動を実施しています。

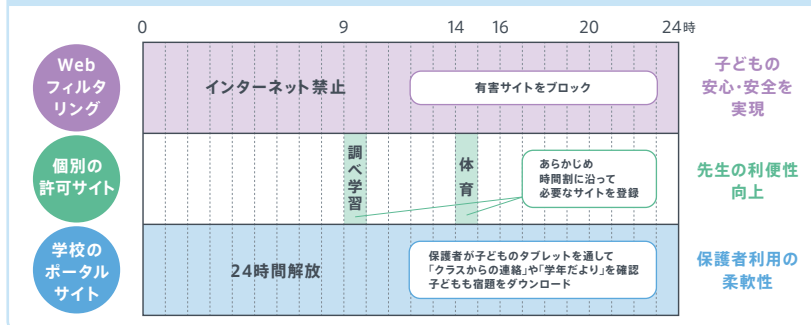
青山学院初等部では、グローバル社会で活躍できる人材育成にも力を入れ、ICT活用にも積極的に取り組んでいます。2012年から電子黒板の導入を始めたほか、学校共有のタブレットPCを段階的に導入しながら取り組みを進めてきました。同校では現在、200台近くの端末が稼働し、そのうち3~4年生が学校共有の端末で1人1台を実施、2019年度からは高学年で個人所有による1人1台も開始予定です。

青山学院初等部 部長の中村貞雄氏は「社会がグローバル化し、これからの時代を生き抜く力を身につけるためには、ICTを取り入れていくことが重要です。また、もともと本校は“個”を生かす教育を大切にしており、ICTはそうした教育を実施するためのツールとして有効だと考えて



学校法人青山学院  
青山学院初等部 部長  
中村 貞雄 氏

子どもの積極性・協調性の向上を実現した、タブレット学習の実証実験を支える「時間割機能」



青山学院初等部 Overview

青山学院初等部(東京都渋谷区)は、建学の精神であるキリスト教信仰にもとづく教育を守り、「真の人になる」人格の育成をめざしています。ランドセルや通信簿の廃止、週5日制の導入、6年間で50日間の宿泊行事など特色ある教育を実施しています。

います」と語ります。青山学院初等部では、今まで培った教育を大切にしながら、子どもたちにより多様に学べる環境を提供していきたい考えです。

とはいえ、小学校のICT導入には不安もあります。デジタルネイティブと呼ばれる今の子どもたちですが、情報モラルや情報リテラシーに関する知識はまだまだ発達段階にあり、1年生から6年生までITスキルの違いも大きいです。またタブレットを家庭へ持ち帰るとなると、各家庭のフィルタリング環境が異なるため、保護者にとっても心配です。中村部長は「学校でICTを活用する以上、安心・安全であるということは、一番大事です。もちろん学校だけではなく、家庭でも安心して使える環境を提供したいと考えており、フィルタリングもそうした視点で選定しています」と語ってくれました。

## 授業内容に応じて、フィルタリングの設定を変更したい

青山学院初等部ではタブレット活用を進めていく中で「教師によって見せたい情報が異なることや、子どもたちのITスキルも向上するなど、学年や授業内容に応じて細かな設定が必要だと感じるようになりました」と話しています。

そこできめ細やかにフィルタリング環境を実現できる「i-FILTER@Cloud」を導入。同製品であれば、「学校全体ではYouTubeを禁止しているが、体育の授業の時だけ体操の動画を見せたい」という要望や、「普段はネットの利用を禁止しているが、調べ学習の時だけ、子どもたちがアクセスできるサイトを設定したい」といった使い方が可能です。

情報主任の井村裕氏は、「ICTを使って授業をやっていると、“これがやりたい”というのが出てきます。私の場合は、授業の進み具合や雰囲気によって見せたい映像も変わりますし、ニュースになった話を取り上げる時もあります。しかし、そうした授業をしたいと思っても、フィルタリングの設定が原因で見せられないというのは、貴重な学習機会を奪ってしまいますし、教師たちがタブレットを活用するモチベーションにも影響してくると思っています」と述べています。個に応じた学びを重視している青山学院初等部としても、包括的な管理ではなく、細かく対応できるフィルタリングが求められるようになったというのです。



学校法人青山学院  
青山学院初等部 教諭 情報主任  
井村 裕氏

## 全体の規制は変えずに、授業に必要なサイトにだけアクセスを許可



学校法人青山学院  
青山学院初等部 3年桜組担任  
古川 武治氏

青山学院初等部では、1人1台を実施する3年生のクラスで「i-FILTER@Cloud」を試験運用しました。「i-FILTER@Cloud」を利用し、カテゴリによるフィルタリングの設定は有効にしつつも、授業で使うサイトについては閲覧できるようにするなど、必要に応じてフィルタリングの設定を変更し、アクセスを許可しました。たとえば、社会の授業で東京都23区について調べ学習を行ったときは、官公庁のサイトだけアクセスを可能にし、23区それぞれのホームページから、区の面積や人口、区の花、名所などの情報を子どもたちが調べ、Wordにまとめました。3年桜組担任の古川武治氏は「調べ学習の時など、教師が指定したサイトにのみアクセスできる環境は、安心してタブレットが使える一因でした。理想としては、制限はゆるい方が望ましいのですが、3年生という発達段階や子どもたちの情報リテラシーを考慮して、まずは安心して使える環境から始め、段階的に活用範囲を広げていこうと考えています」と語ってくれました。3年生といえば、タブレットの活用についてもゲームや動画視聴といった遊びのイメージも強いですが、古川氏はタブレット自体を学習ツールとして定着させながら、インターネットの利用についても子どもたちが学ぶ機会を設けて活用を広げていく方針です。

また、学校ポータルサイトには、クラスの連絡や学年だより、音読の課題などを掲載しており、子どもたちにとって不適切なサイトは禁止、保護者が利用するポータルサイトは24時間アクセス可能にしています。このため、保護者によるポータルサイトの利用率は高く、いつでも、どこでも、子どものタブレットでアクセスできます。「i-FILTER@Cloud」は、子どもたちのみならず、保護者の利用についても柔軟に対応できるのがメリットです。

## 今まで気づかなかったことにも気づく。子どもたちの関係性に変化

タブレットの活用については、どのような効果が得られているでしょうか。これについて井村氏は、「授業に参加できる子どもが増えたと感じます。ICTを使わない授業では発言できる子どもに限られていましたが、今では手を挙げない子どもの意見も分かるようになりました。これによって、今まで気づかなかったことに気づく場面が増え、子どもたちとの関係性も変わってきたと思います」と語っています。

実際に、タブレットを活用した学習について、子どもたちにアンケートを実施した結果、回答からもその様子を知ることができました。なかでも「自分の意見が採用されなくても、喜んで行動することができる」、「自分ひとりで考えることができる」、「他の人と一緒に考えることができる」という項目で、経年変化による効果が見られ、ICTを活用する学習に対して手応えを実感できたというのです。コミュニケーション力、コラボレーション力、思考力、実践力など、ICTを活用することで身につけてきたと井村氏は述べています。

また、中村部長も同様の手応えを感じています。「子どもたちが積極的になってきたと感じます。授業を見に行くと、皆が参加できており、個を活かす学びが実現されてきた」といいます。今後についても、高学年の個人所有による1人1台に向け、さらに活用を広げていきたい考えですが、その一方で、青山学院初等部が長年にわたり大切にしてきた「本物に触れる良さ、本物を体験する大切さ」は守っていききたいと語ります。

中村部長は「ICTを進めれば進めるほど、人間が五感で感じる活動も重要になると思いますので、ICTだけに注力するのではなく、学校としては本物に触れる教育も大事にしていきたい」と話してくれました。青山学院初等部ではめざす教育、守る教育の両方を大切にしながら、着実なICT活用に取り組んでいます。



製品に関するお問い合わせ

Tel / 03-5220-3090 <受付時間>平日9:00~18:00(土、日、祝日、弊社指定休業日を除く)  
E-Mail / sales-info@daj.co.jp URL / www.daj.jp

■本書は、2019年2月現在の情報を基に作成されています。最新の情報は弊社Webサイトをご参照ください。■Active Directory, Azure, Excel, Exchange Online, Exchange Server, Internet Explorer, Microsoft, Microsoft Edge, Office 365, Outlook, PowerPoint, Windows, Windows Server, Wordは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。■デジタルアーツ, DIGITAL ARTS, i-FILTER, info board, ARS, Active Rating System, ACTIVE RATING, ZBRAIN, D-SPA, SP-Cache, NET FILTER, White Web, m-FILTER, m-FILTER MailFilter, m-FILTER Archive, m-FILTER Anti-Spam, m-FILTER File Scan, Mail Detox, FinalCode, DigitalArts@Cloud, Chat@Cloud, Dアラート, Dコンテンツ, 当社・当社製品関連の各種ロゴ・アイコンはデジタルアーツ株式会社の商標または登録商標です。■その他、本書に記載されている各社の社名、製品名、サービス名およびロゴ等は、各社の商標または登録商標です。■本書に記載の内容は予告なく変更することがあります。予めご了承ください。